

下松市・記者発表（配布）資料

令和 8年 4月 7日

部課名	課長名	担当	連絡先（直通）
下松市教育委員会 学校教育課	田谷 義和	尾辻 玲	45-1869
1. 件名	CSリーフレット子ども版「くだまっちゃん！」の完成について		
2. 目的	<p>このたび、地域連携教育の取組をまとめたCSリーフレット子ども版「くだまっちゃん！」が完成しました。下松市内の小中高生が編集委員となり、昨年度夏から編集会議を重ねて、作成したものです。このリーフレットを通して、児童生徒はもとより、地域関係者、保護者並びに教職員の参画意識の向上及び「くだまつ愛」のさらなる醸成を図ることをめざしています。</p> <p>市内の小学校5・6年生、中学生に配付し、小学校1～4年生にはタブレットを活用したデジタル配付を行います。</p>		
3. 日時	令和8年4月発行		
4. 主催者	下松市教育委員会 学校教育課		
5. 内容	別紙資料のとおり ※ 中高生が参加した編集会議のなかで、リーフレットタイトルの「くだまっちゃん！」とは、「ふるさと下松」に「はまっちゃん」を掛け合わせた、子どもたちの発想から生まれた言葉です。		
6. その他			

華陵高等学校

編集委員
2年 吉崎心春 安本伊理
近藤万由



Australia Sunshine coast へのホームステイ

【推しの理由】

オーストラリアへのホームステイを通して、海外の文化を深く学ぶことができました。現地の生徒と一緒に授業を受けられる特別なプログラムもあり、海外の学校生活を体験しました。現地のカワナ高校で授業を受けたり、ホストファミリーと一緒に映画を見たり、自然の中で過ごしたりしました。英語での授業や会話を通して、生きた英語を学ぶことができました。また、現地の友達とパーティーをしたことも、とても楽しい思い出です。



Q: 現地に行くってどうでしたか?
A: とても楽しく、たくさんさんの学びを得ることができ、貴重な経験になりました。特に現地のの方々がとても温かく、歓迎ムードだったので、とても居心地のよい時間を過ごすことができました。

花岡小学校

編集委員
6年 大野史朗 高橋ひま里
大庭心春 藤本穂積



きずなを深めて思い出作り! 集会

【推しの理由】

小学生や保護者、地域の方が一緒に活動しました。クイズや的当てなど、みんなが楽しめる活動がいっぱいありました。活動を通して、みんなが笑顔になることができました。



Q: 今年の集会はどうでしたか?
A: 劇が成功して、参加したみんなが喜んでくれたのがうれしかったです。

くだまっなぐ

私たちの学校の「推し」の取組を、リーフレット編集委員が Q&A 形式でご紹介します。



久保中学校

編集委員
2年 田原陽向 森崎 奏
長島希実 矢野まひる



地域の皆で心も体も元気いっぱい! 「サマースクール」

【推しの理由】

小学生に勉強を教えたあと、ラダーゲッターやモルックなどのニュースポーツを通して、小学生や地域の方と関わることができました。最後はみんなでかき氷を食べました。いろいろな活動を通して、小・中学校と地域のつながりが深まりました。



Q: サマースクールは誰が計画したのですか?
A: 「こみすクラブ」という地域と学校のつながりを作るための組織が工夫して計画しました。

東陽小学校

編集委員
6年 和田幸太郎 木崎 英
尾崎直輝



心でつながろう! あいさつハイタッチ運動

【推しの理由】

全校児童が、地域の方や保護者、先生たちと元気に朝の挨拶とハイタッチをすることで関わりを深めています。毎回同じにならないように、地域の方に被り物を被ってもらったり、「いいねカード」を渡してもらったりと、工夫しながら取組んでいます。



Q: ハイタッチ運動に参加してどうでしたか?
A: 地域の方や先生たちも被り物を着て楽しかったです。このハイタッチ運動でみんなのあいさつがよくなればと思います。
Q: ハイタッチ運動に参加してうれしかったことはどんなことですか?
A: みんなが明るく元気なあいさつとハイタッチをしてくれたうれしかったです。

中村小学校

編集委員
6年 吉澤莉莉 遠谷奈穂 中嶋航人
芝野ひなた 前田真佳



豊かな心を育む「読み聞かせ」

【推しの理由】

地域の方による読み聞かせ活動により、みんなの感情が豊かになりました。読み聞かせの後、本について対話をする機会があり、本好きな子どもたちが増えています。読み聞かせを通して地域の方への感謝の気持ちでいっぱいです。



Q: 読み聞かせを通して思ったことはありますか?
A: 読み聞かせの前に発声練習をしていることを先生から聞きました。地域の方の愛を感じました。
Q: 自分たちも読み聞かせに挑戦してみたいと思いますか?
A: 図書委員会の企画としてやってみたいと思います。

公集小学校

編集委員
6年 福浦ひあ 梅道隆希
佐藤陽祐 白葉聖明



地域の方や保護者と一緒に楽しむ「絆を深めよう集会」

【推しの理由】

たくさんの人とかわり、絆を深めることができずきな集会です。なかよし班の1~6年生と地域の方と一緒にゲームを通して交流をすることができました。



Q: 今年は、地域の方や保護者ともかわる機会が多かったと思います。たくさんの人に参加していたいよかったです。なにか思い出はありますか?
A: 今年は、創立150周年の記念の年でした。地域の方に学校の歴史や豆知識クイズを出してもらっただけではなく、地域の方と一緒に学校内を回る班も作りました。クイズをするときに話している班や協力して回っている班が多く、よかったと思います。

末武中学校

編集委員
3年 堀沢和花菜 森野栞輝 安元翔聖 安次美羽
2年 高瀬丈人



地域とともに歩む歌舞伎部、仲間と想いを形にする映画部

【推しの理由】

【歌舞伎部】表中の歌舞伎部と映画部は、他校にはない特色ある部活動です。学校と地域の方を盛り上げる大きな魅力となっています。歌舞伎部では、地域と受け継がれる「花岡歌舞伎」を通して、演技や所作、言葉遣い、化粧や衣装など伝統芸能を大切に学び、地域の方々の指導のもと文化祭で披露しています。一方、映画部では本格的な機材を使い、脚本から撮影・編集までを生徒自身が担い、専門家の指導も受けています。作品は高く評価され、映画祭で最優秀賞を受賞するなど、学校だけでなく地域にも貢献している点が大きな推しポイントです。



Q: この(歌舞伎部・映画部)に入っていて「よかったこと」ことや「楽しかったこと」はありますか?
【歌舞伎部】A: 多くの人の中で、八木ノ声を出せることができるようになりました。また、舞台に立つという特別な経験がすることができました。
【映画部】A: よかったことは、先輩や先輩の垣根を超えて仲よく活動を楽しめました。また、撮影などなかなかできない体験をすることができました。

下松工業高等学校

編集委員
3年 金本悠希
2年 三輪成輝



地域とともに広がるものづくりの輪

【推しの理由】

下松市の2日目、地元企業7社と連携して「くだまっなぐづくり企業フェア in 下工業」を開催しました。多くの生徒が、企業の方から直接お話を伺うことで、将来の進路や道を身近に感じる貴重な機会となりました。ものづくりを通して学校と地域がつながり、会場は終始、活気に満ちていました。



Q: ものづくり企業フェアで、役に立ったことは何ですか?
A1: 実際の仕事や技術について知ることができ、将来の進路を考えるきっかけになりました。
A2: 企業の抱えきれない努力と安全意識の高さを知ることができ、社会人としてのあり方を学ぶ機会になりました。

下松高等学校

編集委員
2年 小林成愛
三浦美々



地域とつながる絵馬プロジェクト

【推しの理由】

下松高校が中心となり、地域の方々と協力して、巨大絵馬を作りました。美術部のイラスト班がデザインした今年の平安である馬の絵を大きな絵馬に仕上げました。市内の中学生や地域の方々にも色付けに参加していただき、下松高校と地域とのつながりを深めることができました。



Q: 作るうらなってきたか教えてください。
A: 地域の方々と一緒に作る機会がはしかったので、一緒に協力しながら一つの作品を作りあげられた巨大絵馬の制作を思い返しました。

下松中学校

編集委員
3年 日井悠樹 山藤帆星



地域に飛び出せ! 「くだコン夏祭り」

【推しの理由】

地域の方々に竹灯籠の作り方を教わったり、地域の祭りの実行委員会の方々や企画検討をした日、出店のお手伝いしたりと、多くの方の協力があった、成功した行事です。また、地域の方々の助けを受けながら、「どうすればお客様に喜んでいただけるか」を考え、接客したこと、大きく成長することができました。



Q: 地域の人と祭りを運営してみて、どうでしたか?
A: 地域の方に、多くのご協力をいただき、祭りの運営が多くの人の力によって成り立っていることを実感しました! 「くだコンパクション」や「くだまを採る」など、下松や、下松中学校をもっと知ってもらおう企画を、来年も行っていきたいです。

豊井小学校

編集委員
6年 梅本真平 宮澤琢磨



校舎の真ん中に田んぼ!? ~育てて、ついで、笑顔はじける絆の一年~

【推しの理由】

私たちの学校の中庭には地域の方が作った田んぼがあり、地域の方に指導してもらっています。また、その他にもたくさんの方が協力してくれています。毎年もち米を育て、そのもち米を使ってもちつきをします。田んぼを通して、地域の方とのつながりが生まれます。これからは豊井小の伝統として守り続けたいと、児童みんなが考えています。



Q: 実際に米作りをしてみて、どんなことを感じましたか?
A: 米作りは、日頃は、あまり体験できない貴重な経験です。地域の伝統を受け継いで米作りやもちつきができていくことに感謝の気持ちでいっぱいです。